

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 自分流枕草子を作ろう

2 単元の目標

○進んで音読をしながら、昔と今の四季の感じ方について自分なりに考えている。

(関心・意欲・態度)

○書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して交流し合うことができる。(書く能力)

○「春はあけぼの」を読み、昔の人の言葉や感じ方を知ることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	言語文化
進んで音読をしながら、昔と今の四季の感じ方について自分なりに考えている。	書いたものを発表し、表現の仕方に着目して交流している。書くこと(1)カ	当時の言葉と今の言葉との相違点や共通点に気が付いている。言語文化ウ

4 単元について

(1) 本単元で行う主たる言語活動

本単元では、言語活動として「自分流枕草子」を書く活動を行う。昔と今とは、四季の感じ方が変化していると考えられる。清少納言のように、早朝の雲の色や蛍の光で季節を感じる経験は、子どもにはあまり無いのではないだろうか。今は、様々な行事や気温、カレンダーなどで季節の移り変わりを知ることがあっても、自然の移り変わりや周りの景色で四季を感じることは少ないように思う。また、感動することについても今と昔では違いがあると考えられる。昔は雲や虫、山など少しの変化を見つけ、感動することがあったと考えられるが、今は自然に目を向ける時間や環境が減っており、そうした情景に感動することが少なくなっていると考えられる。このような昔と今の感じ方に気付き、四季の移り変わりに目を向けられるようにするには、枕草子を読んだ上で自分でも作品を書き、交流することが大切であると考えた。枕草子を読み、書いたものを友達と交流することで、古典に親しみやすく、楽しく学ぶことができると考える。自分流枕草子を書くにあたり、事前の1、2時間目で「枕草子」の表現の工夫や書き方のきまりについて学習しておく。「春は○○」といった体言止めの形や、「わろし」「をかし」などの古語についても意味を理解させておく。古語については、使える児童は使っても良いこととし、強制にはしないこととする。

自分流枕草子を書かせるにあたり、書かせるための手立てを2つ用意する。1つ目は、ウェブマップの作成である。自分が選んだ季節について、その季節といえど何を思い浮かべるか、図に表していく。いきなり文章に起こすのではなく、図にして

頭に浮かんだ考えをつなげていくことで、書きたいと感じる題材が見えてくると考えた。また、文章にするのが難しい児童にはウェビングマップに数字を書かせ、その順番に文章にしていくことで、簡単に組み立てを考えられるようにしたい。2つ目は、言葉集の作成である。これまでの国語の学習の様子から、自分の考えを書くことが難しい児童もいると考えられる。そのため、事前にそれぞれの季節について何を思い浮かべるかアンケートをとった。そこで出てきた言葉を一覧にし、掲示する。その表の中から書けそうなものを選ばせることで、つまずきを失くし活動についていけない児童の支援ができると考えた。

(2) 本単元で身につけさせたい力

本単元で身につけさせたい力は2つある。1つ目は、書いた作品を交流し、自分との感じ方の違いに気付く力である。単元の1次では、「春はあけぼの」の内容を理解することに重点を置いて学習する。ここで、古語の意味や昔の感じ方、情景をしっかりと想像させておき、2次で友達との作品の交流を行う。そして友達との感じ方の違いに気付くことができるように指導したい。また、自分の選んだ季節だけではなく、他の季節を選んだ友達の意見も聞きながら、四季についての友達との考えの違いや共通点を深めさせたい。

また、この活動をスムーズに行い、作品のひびきを味わい理解を深めさせるためにも、音読は継続して行い、進んで音読する態度を育てたい。

2つ目は、昔の人の言葉を知る力である。「春はあけぼの」には、初めて耳にするであろう古語がたくさん出てくる。学級の今の実態としては、古語についてほとんど知らない状態である。昔の人のものの見方や感じ方を知るために、古語の意味を理解し、作品を理解させたい。また、余裕がある児童には、「自分流枕草子」を書く際に、古語を使用させたい。自分で使ってみることで、より言葉の理解が深まると考えられる。

本単元では、6年生での最初の古典の学習として、古典と楽しい出会いをさせたいと考えている。そのために、自分の考えと昔の人の考えを比べ、新しい発見や思いもしなかった感じ方に触れることで、古典に興味を湧くのではないかと考えた。言葉の意味を知り、様々な人の考え方の違いに気づきながら、楽しく古典を読んでもらいたい。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

① 日記学習

日記で、「〇〇といえば」というものを「お題」として出し、普段からテーマに沿ったものを見付ける練習をさせておく。

② 枕草子の音読、暗唱の継続

③ 読書コーナー

教室内に古典や枕草子に関する図書コーナーを作り、読書に取り組ませる。昔の

自然の豊かさや季節ごとの情景の変化に思いを馳せられるよう、平行して読書を行う。昔の暮らしや景色について書かれた本を気軽に手にとれる環境を教室内に作ることで、昔の情景が想像しやすくなるを考える。

④歴史で平安時代の学習を行った上で授業をし、関連付ける。

本学級の児童は今年度初めて学習する歴史の授業への関心が深い。特に、歴史上の人物を覚えることに楽しさを感じるという声が多く挙がっている。そのため、歴史の学習と関わらせながら、時代背景や清少納言の人物像を想像させていきたい。歴史の学習を通し枕草子が書かれた平安時代の時代背景を知ること、昔の人のものの見方や考え方を理解しやすくなるを考える。

5 児童の実態

省略

6 指導計画（4時間扱い）

次	時	学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
1	1	○春と夏の作品を読み、情景を想像する。 ・書き方の特徴を知る。 ・古語の意味を知る。 ○今との感じ方の違いを考える。 春 ・春と言われて、早朝はあまり想像しなかった。 ・紫色の雲は今もきれい。 夏 ・蛍はあまり見たことが無い。	○清少納言についてや時代背景を一緒に学び、興味をもたせる。 ○音読をさせる。 ○当時の春・夏の情景を自分なりに想像する。 ◇文章を読み、昔の人の言葉を知ることができている。(伝国)
	2	○秋と冬の作品を読み、情景を想像する。 ・古語の意味を知る。 ○今との感じ方の違いを考える。 秋 ・夕方のカラスは今もよく見るな。 ・雁という鳥を知らなかった。 冬 ・今も昔も、霜や雪の白いイメージは同じ。 ・火鉢を見たことがないから、想像できなかった。	○音読をさせる。 ○当時の秋・冬の情景を自分なりに想像する。 ◇文章を読み、昔の人の言葉を知ることができている。(伝国)
2	3	○自分流枕草子を書くためのメモを作る。	○書きたい季節を選び、ウェビングマップを作る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・季節から思い浮かぶことの連想ゲームをする。 ・書きたい季節と題材を決める。 	<p>◇四季の感じ方について自分なりに考えることができる。 (関心・意欲・態度)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○自分流の枕草子を書く。(本時) ○作品を交流し、友達との感じ方の違いや四季それぞれの特徴を知る。 ○作品を書いてみて感じたことについて、友達と交流する。 	<p>◇進んで音読をしながら、友達との四季の感じ方について自分なりに考えることができる。(関心・意欲・態度)</p> <p>◇書いたものをもとに、感じ方の違いに着目して交流することができる。(書く)</p>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

◇進んで音読をしながら、四季の感じ方について自分なりに考えている。

(関心・意欲・態度)

◇書いたものを発表し合い、感じ方の違いに着目して交流し合うことができる。

(書く能力)

(2) 展開 (4 / 4)

主な学習活動	指導や支援の手立て ◇評価 (評価方法)
1 本時のめあてを確認する。	○掲示物を使用し前時の振り返りをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分流枕草子を書こう。</div>	
2 「枕草子」を音読する。	<p>○読み方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句読点や語句の句切れに気を付けて ・リズムやひびきを味わいながら ・情景を想像しながら <p>◇進んで音読をしている。</p>
<p>3 自分の選んだ季節について、自分流の「枕草子」を書く。</p> <p>○前時に作成したメモを参考にしながら、書きたい事柄を決める。</p> <p>春 桜、花見、入学式など</p> <p>夏 せみ、すいか、プールなど</p> <p>秋 十五夜、どんぐり、さつまいもなど</p> <p>冬 ゆき、こたつ、みかんなど</p> <p>○早く終わった児童は、他の作品も作って</p>	<p>○「春は○○」という体言止めの書きだしを思い出させる。</p> <p>○「をかし」「わろし」などの、昔の言葉を使ってもよい。</p> <p>○なぜそう思うのか、情景や感じたことを必ず作品に入れさせる。</p> <p>○前時に書いたウェビングマップやワークシートを参考にしながら書かせる。</p>

<p>良いことを伝える。</p> <p>4 作品を友達と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ季節同士でお互いの作品を発表し合う。 ・友達の作った作品をグループ全員で一度音読する。 <p>(例)「自分は夏について、こんな作品を作りました。〈本人が読んだ後もう一度全員で音読〉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員の作品を発表した後、友達の作品で良かったところを伝え合う。 <p>春・自分は桜が散るのは悲しくなるけれど、それがきれいだと感じる人もいることに驚いた。</p> <p>夏・同じ海でも、表し方が違うのが面白い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽を思い浮かべるのは自分と同じ。 <p>秋・虫の音を聞いたことはなかったけれど、鳴き声を聞いている人がすごいなと思った。</p> <p>冬・寒いのは嫌いだが、好きだと感じる人もいるのに驚いた。</p> <p>5 全体で感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの季節の感じ方に友達と同じ部分や違う部分があって面白い。 ・日本の四季ごとの特徴がたくさんあって、面白い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分と友達との四季の感じ方について考えることができる。 ◇進んで友達の作品を音読している。 ○相手が見やすいよう清書の紙を大きくし、相手に見せながら発表させるようにする。 ○作品の発表が終わった後、友達の作品について意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ感じ方 ・自分と違う感じ方 ・良いと思った言葉や表現 ○四季それぞれにおいて友達との感じ方や情景の相違点に気付かせる。 ◇書いたものをもとに、それぞれが選んだ季節の風物詩や、感じ方の違いに着目して交流し合っている。 ○友達との交流を通して感じたことを全体で共有させる。 ○机間指導をしながら、子どもの意見を取り上げる。
--	---

(3) 資料・見本等

① 自分流枕草子

春は桜。
満開のころはさらなり。まだつぼみが多い時に、いつ咲くかと待っている時間もとても楽しい。
夏が近づくにつれて、山がピンクから緑に変わっていき、桜の木に毛虫がつくようになるのはわろし。

末永 眞子

② 板書

自分流枕草子を書こう。

ウェビングマップ (教師用)

自分流枕草子 (教師作品)

古語
をかし
わろし
等

○それぞれの季節の感じ方に今と同じ部分や違う部分があって面白い。
○昔から、日本には四季ごとの特徴があったことが分かり、面白い。